

## 東京国立近代美術館 収集方針

東京国立近代美術館本館では、20世紀初頭から今日までの日本画、洋画、彫刻・立体造形、版画、水彩・素描、写真、映像作品を、日本を中心に、日本に影響を与えた海外作家の作品も合わせ収集している。年度計画の中では、①1970年代以降の日本と海外の作品の収集、②日本の美術に影響を与えた海外作家の作品の収集、③1900～1940年代の日本画などの収集に特に注力することになっており、令和2年度は①について舟越桂、小林孝亘、中平卓馬ら、そしてさらに若い世代の照屋勇賢、富井大裕、風間サチコ、千葉正也らの作品を収集した。また②としてボナールの作品を、③として福田平八郎と鏑木清方の作品を収集した。また上記方針とは別に、東日本大震災との関連を示す作品についても調査・収集を進め、加藤翼、畠山直哉の作品を収蔵してコレクション展示に厚みを増すことができた。

国立工芸館では、文化庁からの管理換えによる伝統系の作品を核としつつ、近代以降現代にいたる展開や時代ごとの動向を示す工芸及びデザイン作品を収集し、その歴史的な流れが概観できるコレクションの形成を目指している。令和2年度は、明治期の輸出工芸の典型を示す作品として、初代山川孝次の《金銀象嵌環付花瓶》(1877年頃)を購入した。明治の輸出工芸の特徴的な在り方を示す本作品の購入により、明治期の工芸作品の充実をはかることができた。しかしながら、絶対数としてまだこの時期の作品が不足しているために、引き続き調査研究ならびに獲得可能な作品の探索を続ける。また、近代陶芸を代表する作家・加藤唐九郎の《鼠志野茶壺 銘 鬼ガ島》(1969年)を購入した。本作は加藤唐九郎の代表作で、赤土に志野釉を掛けた鼠志野の技法の一種が用いられている。加藤唐九郎は桃山時代等の古い陶器に規範を求めて作陶し、近代作家としての自己の表現を確立していった作家として、荒川豊蔵や金重陶陽らとともにその後の陶芸家に影響を与えた一人であったが、いまだ十分な評価がなされていない。これまで人目に触れる機会が限られていた本作を購入し、国民の鑑賞機会を確保するとともに、作家の研究を進めることが可能となった。

## 東京国立近代美術館 美術作品購入一覧 (令和2年度)



= 特別予算購入

1	<p>種 別 : 彫刻 (立体造形)</p> <p>作 者 名 : 勅使河原蒼風(1900-1979)</p> <p>作 品 名 : [無題]</p> <p>制 作 年 : 1959年</p> <p>材 質・形 状 : ガラスモザイク、木</p> <p>寸 法 : 58.0×57.0×73.0cm</p> <p>解 説 : 勅使河原蒼風は草月流家元として前衛いけばなで活躍したが、立体造形も旺盛に制作・発表した。木にガラスモザイクを埋め込んだ本作は同時代の絵画におけるアンフォルメル動向に呼応したユニークな造形である。</p> <p>取 得 額 : 6,421,100円</p> <p>展 示 予 定 : 所蔵作品展 (2021年5月-9月) で展示予定</p>
2	<p>種 別 : 彫刻 (立体造形)</p> <p>作 者 名 : 勅使河原蒼風(1900-1979)</p> <p>作 品 名 : [無題]</p> <p>制 作 年 : 1959年</p> <p>材 質・形 状 : 木、真鍮</p> <p>寸 法 : 88.0×95.0×50.0cm</p> <p>解 説 : 勅使河原蒼風は草月流家元として前衛いけばなで活躍したが、立体造形も旺盛に制作・発表した。木の表面に真鍮を貼り付けた本作は、いけばなの素材から発展させたユニークな造形となっている。</p> <p>取 得 額 (円) : 6,421,100円</p> <p>展 示 予 定 : 所蔵作品展 (2021年5月-9月) で展示予定</p>
3	<p>種 別 : 彫刻 (立体造形)</p> <p>作 者 名 : 勅使河原蒼風(1900-1979)</p> <p>作 品 名 : [無題]</p> <p>制 作 年 : 1959年</p> <p>材 質・形 状 : 木、真鍮</p> <p>寸 法 : 66.0×107.0×66.0cm</p> <p>解 説 : 勅使河原蒼風は草月流家元として前衛いけばなで活躍したが、立体造形も旺盛に制作・発表した。木の表面に真鍮を貼り付けた本作は、いけばなの素材から発展させたユニークな造形となっている。</p> <p>取 得 額 (円) : 6,421,100円</p> <p>展 示 予 定 : 所蔵作品展 (2021年5月-9月) で展示予定</p>

4	<p>種別 : 油彩その他            作者名 : 椿貞雄(1896-1957)            作品名 : 腕鎮を持てる自画像            制作年 : 1917年            材質・形状 : 油彩・キャンバス            寸法 : 60.0×49.3cm</p>	<p>解説 : 椿は岸田劉生とともに草土社を結成して細密描写を追求した。本作は彼の代表作に位置づけられ、細密描写に用いる腕鎮を手にして決意に満ちた表情をたたえた堂々たる自画像である。</p> <p>取得額(円) : 6,300,000円            展示予定 : 計画中</p>
5	<p>種別 : 油彩その他            作者名 : ピエール・ボナール(1867-1947)            作品名 : プロヴァンス風景            制作年 : 1932年            材質・形状 : 油彩・キャンバス            寸法 : 76.0×113.0cm</p>	<p>解説 : 色彩画家として知られるボナールだが、近年とくに彼の1930年代以降の風景画が現代絵画に与えた影響が注目されている。きらめく色彩が散りばめられた本作はその特徴をよく示す。</p> <p>取得額(円) : 777,558,650円            展示予定 : 所蔵作品展(2022年3月-5月)で展示予定</p>
6	<p>種別 : 油彩その他            作者名 : 千葉正也(1980-)            作品名 : 平和な村            制作年 : 2019-20年            材質・形状 : 油彩・キャンバス            寸法 : 215.0×370.0cm</p>	<p>解説 : 千葉はまず立体物を制作し、それをさまざまに組み合わせた状況を絵画として描くことで、虚構と現実、立体と平面、人工と自然などの境界を考えさせる。本作はそうした彼の集大成に位置づけられる大作。</p> <p>取得額(円) : —            展示予定 : 貸出済(東京オペラシティアートギャラリー; 2021年1月-3月)</p>
7	<p>種別 : 版画            作者名 : 風間サチコ(1972-)            作品名 : セメント・モリ            制作年 : 2020年            材質・形状 : 木版画、アクリリック、ジェッソ、版木、セメント            寸法 : 可変(版画は各180.0×90.0cm)</p>	<p>解説 : 風間はさまざまな社会的事象をリサーチし、それをアイロニカルなユーモアをたたえた木版画で表してきた。本作は近代文明を支えてきたコンクリートの原料となる石灰の採掘と墓掘りとを重ね合わせたインスタレーションである。</p> <p>取得額(円) : —            展示予定 : 計画中</p>

8	<p>種 別 : 彫刻 (立体造形)</p> <p>作 者 名 : 舟越桂 (1951-)</p> <p>作 品 名 : 森へ行く日</p> <p>制 作 年 : 1984年</p> <p>材 質・形 状 : 木、彩色、大理石、ゴムチューブ</p> <p>寸 法 : 79.0×49.0×24.0cm</p> <p>解 説 : 舟越は楠を素材に、大理石の眼をはめ込んだ技法で、静かな中に独特な存在感をたたえた人物像を生み出し、1980年代以降の新しい彫刻の可能性を示した。本作は彼の初期の代表作に位置づけられる。</p> <p>取得額 (円) : —</p> <p>展 示 予 定 : 貸出済 (渋谷区立松濤美術館 ; 2020年12月-2021年1月)</p>
9	<p>種 別 : 彫刻 (立体造形)</p> <p>作 者 名 : 富井大裕 (1973-)</p> <p>作 品 名 : ゴールドフィンガー</p> <p>制 作 年 : 2007年</p> <p>材 質・形 状 : 画鋸、指示書</p> <p>寸 法 : 181.5×181.5×0.1 cm</p> <p>解 説 : 富井は身近な既製品を素材に、その素材そのものが有する条件を構造化した立体作品を制作する。本作は27225個の画鋸によって壁面にきらめく黄金の色面を生み出すものである。</p> <p>取得額 (円) : —</p> <p>展 示 予 定 : 計画中</p>
10	<p>種 別 : 日本画</p> <p>作 者 名 : 鏑木清方 (1878-1972)</p> <p>作 品 名 : 『苦楽』挿絵原画 名作絵物語「金色夜叉」</p> <p>制 作 年 : 1947年</p> <p>材 質・形 状 : 紙本彩色 折帖 (8面)</p> <p>寸 法 : 各26.8×21.0cm 8面</p> <p>解 説 : 大佛次郎による文芸雑誌『苦楽』に掲載された、尾崎紅葉「金色夜叉」の挿絵原画。</p> <p>取得額 (円) : 2,200,000円</p> <p>展 示 予 定 : 鏑木清方展 (2022年3月-5月) で展示予定</p>
11	<p>種 別 : 日本画</p> <p>作 者 名 : 鏑木清方 (1878-1972)</p> <p>作 品 名 : 『苦楽』挿絵原画 名作絵物語「日本橋」</p> <p>制 作 年 : 1948年</p> <p>材 質・形 状 : 紙本彩色 折帖 (8面)</p> <p>寸 法 : 各27.6×21.4cm 8面</p> <p>解 説 : 大佛次郎による文芸雑誌『苦楽』に掲載された、泉鏡花「日本橋」の挿絵原画。</p> <p>取得額 (円) : 1,100,000円</p> <p>展 示 予 定 : 鏑木清方展 (2022年3月-5月) で展示予定</p>

12	<p>種 別 : 日本画</p> <p>作 者 名 : 鏗木清方(1878-1972)</p> <p>作 品 名 : 『苦楽』表紙原画</p> <p>制 作 年 : 1947-1949年</p> <p>材 質・形 状 : 絹本彩色 折帖 (9面) 絹本彩色 色紙 (6面) 絹本彩色 軸 (2点)</p> <p>寸 法 :</p> <p>【折帖】 王子詣 29.3×27.0cm 紅梅屋敷 29.6×27.4cm 春雨 28.8×27.4cm 菖蒲湯 27.9×27.0cm 宇治の蜩 29.1×27.1cm 湯の宿 27.3×25.5cm ふた昔 29.5×27.5cm 舞妓 28.3×23.3cm 雪 29.1×27.4cm</p> <p>【色紙】 牡丹 27.1×25.0cm 神田祭 26.5×24.0cm 菊 29.3×24.0cm 松ノ内 29.2×26.7cm 箱庭 28.8×27.5cm 芙蓉 29.0×27.5cm</p> <p>【軸】 堀川波の鼓 29.7×27.4cm たけくらべの美登利 28.8×27.4cm</p> <p>解 説 : 大佛次郎による文芸雑誌『苦楽』の表紙原画。いずれも美人画であるが、12ヶ月の季節に応じた風俗が表されている。展覧会での発表よりも手元で楽しむ「卓上芸術」を主張した、戦後の清方の姿勢をよく伝える作例である。</p> <p>取得額 (円) : 15,400,000円</p> <p>展 示 予 定 : 鏗木清方展 (2022年3月-5月) で展示予定</p>	
13	<p>種 別 : 油彩その他</p> <p>作 者 名 : 野口弥太郎(1899-1976)</p> <p>作 品 名 : 巴里祭</p> <p>制 作 年 : 1932年</p> <p>材 質・形 状 : 油彩・キャンバス</p> <p>寸 法 : 116.3×104.0 cm</p> <p>解 説 : 昭和初期にパリで学び、フォーヴィスムの影響を受けた野口の、パリ時代の貴重な作例。祭の喧騒が明暗の強い対比で描かれる。</p> <p>取得額 (円) : 5,500,000円</p> <p>展 示 予 定 : 計画中</p>	
14	<p>種 別 : 素描</p> <p>作 者 名 : 木下晋(1947-)</p> <p>作 品 名 : 仰臥</p> <p>制 作 年 : 2020年</p> <p>材 質・形 状 : 鉛筆・紙</p> <p>寸 法 : (イメージ寸) 124.6×199.5 cm (紙寸) 135.0×209.6 cm</p> <p>解 説 : 鉛筆による大画面の細密描写で、人間の存在に迫る木下。本作はパーキンソン病の妻をモデルにした新作で、虚空を見据える眼が印象的である。</p> <p>取得額 (円) : 一</p> <p>展 示 予 定 : 計画中</p>	

15	<p>種 別 : 彫刻 (立体造形)</p> <p>作 者 名 : 照屋勇賢(1973-)</p> <p>作 品 名 : 告知一森</p> <p>制 作 年 : 2012年</p> <p>材 質・形 状 : 紙、糊</p> <p>寸 法 : 可変 (5点組) (1) (2) 15.5×40.5×30.5 cm (3) 9.0×23.0×18.0 cm (4) (5) 12.5×30.0×23.0 cm</p> <p>解 説 : ファッションブランドの紙袋の一部を樹木のように切抜き、横倒しにした開口部から覗き見る作品。アメリカを拠点に異文化理解や環境問題などをテーマに制作する照屋の特質をよく示す作品。</p> <p>取得額 (円) : —</p> <p>展 示 予 定 : 計画中</p>
16	<p>種 別 : 映像</p> <p>作 者 名 : 加藤翼(1984-)</p> <p>作 品 名 : The Lighthouses—11.3 PROJECT</p> <p>制 作 年 : 2011/18年</p> <p>材 質・形 状 : 映像 ed. 2/3</p> <p>寸 法 : 本編3分59秒、再編集版6分25秒、ドキュメント映像16分43秒+1分</p> <p>解 説 : 加藤は世界各地でその地域の住民とともに作品を作る活動を続けている。本作は東日本大震災の津波で流された灯台を、被災住宅の廃材で再現し、その地域住民とともにロープで引き起こすイベントを映像化したもの。</p> <p>取得額 (円) : —</p> <p>展 示 予 定 : 所蔵作品展 (2021年5月-9月) で展示予定</p>
17	<p>種 別 : 日本画</p> <p>作 者 名 : 福田平八郎(1892-1974)</p> <p>作 品 名 : 朝顔</p> <p>制 作 年 : 1924年</p> <p>材 質・形 状 : 絹本彩色 軸</p> <p>寸 法 : 46.0×51.2cm</p> <p>解 説 : 大正期の細密描写の傾向に位置づけられ、葉の表面の露まで細かく描かれているが、その一方で後年の装飾的傾向も感じさせる、平八郎の初期作品である。</p> <p>取得額 (円) : 4,004,000円</p> <p>展 示 予 定 : 計画中</p>
18	<p>種 別 : 油彩その他</p> <p>作 者 名 : 小林孝亘(1960-)</p> <p>作 品 名 : Water Fountain</p> <p>制 作 年 : 1994年</p> <p>材 質・形 状 : 油彩・綿布張りパネル</p> <p>寸 法 : 182.0×245.0cm</p> <p>解 説 : 身近なものを画面の正面から捉え、不思議な存在感で描く小林は、1990年代後半以降の新しい具象絵画の動きの中で注目されてきたが、本作はその転機にあたる重要な作品。</p> <p>取得額 (円) : —</p> <p>展 示 予 定 : 貸出予定 (豊田市美術館 ; 2022年2月-5月)</p>

19	<p>種 別 : 写真</p> <p>作 者 名 : 中平卓馬(1938-2015)</p> <p>作 品 名 : 「街路あるいはテロルの痕跡」 (13点組)</p> <p>制 作 年 : 1976年</p> <p>材 質・形 状 : ゼラチン・シルバー・プリント</p> <p>寸 法 : 16.1×242.2(25.2×30.3)cmほか</p> <p>解 説 : 1970年代に写真表現の可能性を実作と理論の両面から問い続けた中平の、急性アルコール中毒で倒れる直前の仕事。パリとマルセイユの街路でのスナップショット。</p> <p>取得額(円) : 11,880,000円</p> <p>展 示 予 定 : 計画中</p>
20	<p>種 別 : 写真</p> <p>作 者 名 : 山村雅昭(1939-1987)</p> <p>作 品 名 : ワシントンハイツの子供たち (55点組)</p> <p>制 作 年 : 1959-1962年</p> <p>材 質・形 状 : ゼラチン・シルバー・プリント</p> <p>寸 法 : 27.2×18.2(31.0×25.4)cmほか</p> <p>解 説 : 代々木にあった在日米軍施設に取材し、とくにハイコントラストで捉えた黒人の子供たちの姿が印象的である。1963年に当館で開催された「現代写真展1961-62」で発表された。</p> <p>取得額(円) : 4,620,000円</p> <p>展 示 予 定 : 計画中</p>
21	<p>種 別 : 写真</p> <p>作 者 名 : 畠山直哉(1958-)</p> <p>作 品 名 : 「Untitled (tsunami trees)」より 2018年10月31日 宮城県亘理町</p> <p>制 作 年 : 2018年</p> <p>材 質・形 状 : 発色現像方式印画、額装、A. P.</p> <p>寸 法 : 108.0×126.6cm</p> <p>解 説 : 東日本大震災の被災地に取材したもの。津波でいったん立ち枯れた後、再生した樹木が撮影されている。自身も陸前高田出身で、震災で母親と実家を失った畠山の、震災後数年の継続した仕事のひとつの達成を示す作品。</p> <p>取得額(円) : —</p> <p>展 示 予 定 : 所蔵作品展(2021年3月-5月)で展示済み</p>
22	<p>種 別 : 写真</p> <p>作 者 名 : 畠山直哉(1958-)</p> <p>作 品 名 : 「Untitled (tsunami trees)」より 2019年8月2日 福島県南相馬市</p> <p>制 作 年 : 2019年</p> <p>材 質・形 状 : 発色現像方式印画、額装、A. P.</p> <p>寸 法 : 108.0×126.6cm</p> <p>解 説 : 東日本大震災の被災地に取材したもの。津波でいったん立ち枯れた後、再生した樹木が撮影されている。自身も陸前高田出身で、震災で母親と実家を失った畠山の、震災後数年の継続した仕事のひとつの達成を示す作品。</p> <p>取得額(円) : —</p> <p>展 示 予 定 : 所蔵作品展(2021年3月-5月)で展示済み</p>

23	<p>種 別 : 写真</p> <p>作 者 名 : 畠山直哉(1958-)</p> <p>作 品 名 : 「Untitled (tsunami trees)」より 2019年10月6日 岩手県陸前高田市</p> <p>制 作 年 : 2019年</p> <p>材 質・形 状 : 発色現像方式印画、額装、A. P.</p> <p>寸 法 : 108.0×126.6cm</p>	<p>解 説 : 東日本大震災の被災地に取材したもの。津波でいったん立ち枯れた後、再生した樹木が撮影されている。自身も陸前高田出身で、震災で母親と実家を失った畠山の、震災後数年の継続した仕事のひとつの達成を示す作品。</p> <p>取得額(円) : ー</p> <p>展 示 予 定 : 所蔵作品展(2021年3月-5月)で展示済み</p>
24 	<p>種 別 : 金工</p> <p>作 者 名 : 初代 山川 孝次(1828-1882)</p> <p>作 品 名 : 金銀象嵌環付花瓶</p> <p>制 作 年 : c.1877年</p> <p>材 質・形 状 : 黄銅、鑄造、象嵌</p> <p>寸 法 : h56.4 D19.8 cm</p>	<p>解 説 : 初代山川孝次は明治期の加賀象嵌の名工。本作品には、全体に古代中国の青銅器に由来する文様がちりばめられ、明治の初期輸出の特長を顕著に示す。関連する下図も存在し、明治時代の工芸を示す代表的作品と位置づけられる。</p> <p>取得額(円) : 33,000,000円</p> <p>展 示 予 定 : 国立工芸館にて展示予定(国立工芸館石川移転開館1周年記念展《十二の鷹》と明治の工芸(2021年10月9日-12月12日))</p>
25 	<p>種 別 : 陶磁</p> <p>作 者 名 : 加藤 唐九郎(1897-1985)</p> <p>作 品 名 : 鼠志野茶盤 銘 鬼ガ島</p> <p>制 作 年 : 1969年</p> <p>材 質・形 状 : 陶器</p> <p>寸 法 : h9.3 D13.5cm</p>	<p>解 説 : 加藤唐九郎は昭和初期に起こった桃山復興の立役者で、その後の伝統的な創作活動に影響を与えた一人。本作は『唐九郎志野茶碗』の巻頭を飾った代表作で、国立美術館としては初めての収蔵となる。加藤の再評価をするに相応しい作品。</p> <p>取得額(円) : 36,300,000円</p> <p>展 示 予 定 : 国立工芸館にて展示予定(国立工芸館石川移転開館記念展Ⅲ 近代工芸と茶の湯のうつわー四季のしつらいー(2021年4月29日~7月4日))</p>
26	<p>種 別 : 陶磁</p> <p>作 者 名 : 荒木 高子(1921-2004)</p> <p>作 品 名 : Pocket Bible</p> <p>制 作 年 : 2000年</p> <p>材 質・形 状 : 磁土、シルクスクリーン</p> <p>寸 法 : h9.3 w15.8 d15.6cm</p>	<p>解 説 : 荒木は磁土等に聖書をシルクスクリーンで転写して焼き上げた〈聖書〉シリーズで国内外で評価された陶芸家。本作は晩年に手掛けた〈ポケットバイブル〉と呼ばれるシリーズで、小品ながら荒木の作品の特徴を示している。</p> <p>取得額(円) : 3,410,000円</p> <p>展 示 予 定 : 計画中</p>

27	<p>種 別 : 陶磁</p> <p>作 者 名 : 加藤 土師萌 (1900-1968)</p> <p>作 品 名 : 萌黄金欄手菊文蓋付飾壺 赤地金欄手菊文蓋付飾壺</p> <p>制 作 年 : 1967年</p> <p>材 質 ・ 形 状 : 萌黄 : 磁器赤地 : 磁器</p> <p>寸 法 : h72.0 D38.0cm h71.8 D37.8cm</p> <p>解 説 : 加藤土師萌は重要無形文化財「色絵磁器」の保持者。本作は新宮殿に納めた大飾壺一対を制作するために手掛けた二分の一スケールのもの。金欄手の技法が遺憾なく発揮されている。</p> <p>取得額 (円) : 11,000,000円</p> <p>展 示 予 定 : 計画中</p>
28	<p>種 別 : 陶磁</p> <p>作 者 名 : 鈴木 治 (1926-2001)</p> <p>作 品 名 : 馬</p> <p>制 作 年 : 1977年</p> <p>材 質 ・ 形 状 : 磁土、青白磁</p> <p>寸 法 : h51.6 w34.4 d15.4cm</p> <p>解 説 : 鈴木治は前衛陶芸家集団として知られる「走泥社」の結成メンバーで、陶芸による新しい造形表現の先駆者の一人として知られる。本作はみずみずしい青白磁の「馬」の大作で、鈴木の本考と独特のフォルムが一体化した代表作である。</p> <p>取得額 (円) : 9,900,000円</p> <p>展 示 予 定 : 計画中</p>
29	<p>種 別 : 金工</p> <p>作 者 名 : 海野 清 (1884-1956)</p> <p>作 品 名 : 琵琶</p> <p>制 作 年 : 1930年</p> <p>材 質 ・ 形 状 : 赤銅、銀、彫金、象嵌</p> <p>寸 法 : 琵琶+包袋 : h6.8 w27.8 d14.1cm 琵琶 : h6.0 w26.7 d10.4cm 包袋 : h2.0 w27.8 d14.0cm</p> <p>解 説 : 海野清は東京美術学校で長く教鞭をとり、後進に大きな影響を与えた金工家。本作は琵琶とその包袋とがセットになったもので、さまざまな金属とそれらを加工して装飾する確かな技術と繊細な表現が見て取れる秀作である。</p> <p>取得額 (円) : 3,630,000円</p> <p>展 示 予 定 : 国立工芸館にて展示予定 (国立工芸館石川移転開館 1 周年記念展《十二の鷹》と明治の工芸 (2021年10月9日—12月12日))</p>
30	<p>種 別 : 染織</p> <p>作 者 名 : 北村 武資 (1935-)</p> <p>作 品 名 : 経錦帯「春苑」</p> <p>制 作 年 : 2012年</p> <p>材 質 ・ 形 状 : 絹、経錦</p> <p>寸 法 : w71.0cm</p> <p>解 説 : 北村は「羅」及び「経錦」の重要無形文化財保持者。経錦は古代中国でもその難易度から衰退した技法だが、本作では過去にも不可能だった寸法と配色とで構成された。歴史に現代人の視点をもって挑んだ意欲作である。</p> <p>取得額 (円) : —</p> <p>展 示 予 定 : 国立工芸館にて展示予定 (所蔵作品展たんけん! こども工芸館 ジャングル⇄パラダイス : 2021年7月17日—9月26日)</p>

31	<p>種 別 : 陶磁</p> <p>作 者 名 : 岡部 嶺男 (1919-1990)</p> <p>作 品 名 : 古瀬戸瓶子</p> <p>制 作 年 : 1962年</p> <p>材 質・形 状 : 陶器</p> <p>寸 法 : h39.6 d24.5cm</p>	<p>解 説 : 岡部嶺男は器形をベースに革新的な作品を次々と発表した陶芸家。本作は1963年に開催された「瓶子後援会」展に出品されたもので、故郷の伝統技法とその器形を岡部なりに解釈して再構築したもので、岡部の前半期の作風を代表する。</p> <p>取得額 (円) : 16,500,000円</p> <p>展 示 予 定 : 計画中</p>
32	<p>種 別 : 陶磁</p> <p>作 者 名 : 楠部 彌弐 (1897-1984)</p> <p>作 品 名 : 和 花瓶</p> <p>制 作 年 : 1961年</p> <p>材 質・形 状 : 陶器</p> <p>寸 法 : h52.8 D34.5cm</p>	<p>解 説 : 楠部彌弐は日展の重鎮として活躍し文化勲章を受章した陶芸家。本作はコバルト・ブルーの色合いが美しい青釉作品シリーズのひとつで、日展の出品作であり大作。造形に対する思考とそのプロセスが端的に示されている。</p> <p>取得額 (円) : 6,270,000円</p> <p>展 示 予 定 : 計画中</p>
33	<p>種 別 : 陶磁</p> <p>作 者 名 : エリザベス・フリッチ (Elizabeth Fritsch) (1940-)</p> <p>作 品 名 : ポット</p> <p>制 作 年 : c.1978年</p> <p>材 質・形 状 : 陶器</p> <p>寸 法 : h28.8 w16.2 d8.5cm</p>	<p>解 説 : フリッチは現代イギリスを代表するスタジオポッターの一人。本作は伝統的な器形をベースにしつつ形を変化させて模様との融合をはかったもので、リーチ以降、脈々と受け継がれているイギリス陶芸の器形を主体とした造形的展開を示している。</p> <p>取得額 (円) : —</p> <p>展 示 予 定 : 計画中</p>
34	<p>種 別 : 陶磁</p> <p>作 者 名 : ルーシー・リー (Lucie Rie) (1902-1995)</p> <p>作 品 名 : スパイラル文花瓶</p> <p>制 作 年 : c.1980年</p> <p>材 質・形 状 : 陶器</p> <p>寸 法 : h37.0 w18.0 d17.4cm</p>	<p>解 説 : リーはイギリス現代陶芸におけるモダニズム世代を代表する一人。本作に見られる胴部が豊かに膨らみ、頸が長くラップ状に広がる口を持つフォルムはリーの典型的な花瓶のスタイル。スパイラル文様や凹凸のある釉薬表現なども、リーの作風を端的に伝えるものである。</p> <p>取得額 (円) : 6,050,000円</p> <p>展 示 予 定 : 計画中</p>

35	<p>種 別 : 金工            作 者 名 : 津田 信夫 (1875-1946)            作 品 名 : 振威八荒            制 作 年 : 1937年            材 質・形 状 : 青銅            寸 法 : h51.2 w27.0 d18.6cm</p>	<p>解 説 : 津田信夫はヨーロッパにおける最新の工芸事情を伝えて日本の近代工芸の発展に重要な役割を果たした金工家。「振威八荒」とは鳥獣の王である鷲のこと。本作は抽象化された岩に胸を張り堂々と立つ鷲の姿が映し出されており、津田の作風を知る秀作。</p> <p>取得額 (円) : 6,050,000円</p> <p>展 示 予 定 : 国立工芸館にて展示予定 (国立工芸館石川移転開館 1 周年記念展《十二の鷹》と明治の工芸 (2021年10月9日-12月12日))</p>
36	<p>種 別 : 人形            作 者 名 : 中村 信喬 (1957-)            作 品 名 : 遙かなるローマ            制 作 年 : 2018年            材 質・形 状 : 陶土、陶彫彩色            寸 法 : h38.0 w16.0 w14.0cm</p>	<p>解 説 : 中村は国際貿易港・博多の歴史的関心から人や文化の交流を題材に人形制作している。異国情緒あふれる衣裳と陶胎らしいきめ細やかさを探究しながら、肩の抜けた立姿でおどかな人形の本質を示した。</p> <p>取得額 (円) : —</p> <p>展 示 予 定 : 計画中</p>
<p>他 1 9 点 / 計 5 5 点 購入総額 : 1,064,656,937円</p>		